

福島第一原子力発電所3号機におけるプルサーマル実施に係る安全確認のためのプロジェクトチームによる第3回現地確認結果について

平成22年9月22日
福島県原子力安全対策課

9月17日(金)～18日(土)、福島第一原子力発電所3号機におけるプルサーマル実施に係る安全確認のためのプロジェクトチームによる第3回目の現地確認を実施しましたが、その結果は下記のとおりです。

なお、原子炉起動直前に不具合が発生したことを踏まえ、福島第一原子力発電所に対して、作業品質の管理を徹底し、一層の向上を図るよう申し入れました。

記

1 確認状況

- (1) 日時 平成22年9月17日(金) 午後9時～18日(土) 午後1時40分
- (2) 場所 東京電力(株)福島第一原子力発電所3号機(中央制御室ほか)
- (3) 確認者 小山原子力安全対策課長、立地町担当課長等6名

2 確認結果

(1) 9月17日(金)

原子炉格納容器漏えい率検査(*1)の状況、非常用ディーゼル発電機及び非常用炉心冷却系(*2)機能検査の状況を書類調査し、特に問題ないことを確認した。(書類確認)

原子炉起動に係る実施体制、操作手順等を聴取し、特に問題ないことを確認した。

(中央制御室において、福島第一原子力発電所による起動準備の作業中、午後10時41分、非常用炉心冷却系の表示灯に不具合があることが判明。)

福島第一原子力発電所において起動準備作業を一旦中断し、不具合の原因究明と対策を講じたうえで再開する方針であることを確認するとともに、その対応状況について、逐次報告するよう求めた。

(2) 9月18日(土)

(午前1時30分、不具合の原因がほぼ特定できたこと、その復旧作業には時間を要すること及び運転員の当直体制を考慮して、福島第一原子力発電所では、翌日午前10時以降に起動作業を延期することを決定。これにより、プロジェクトチームは一旦退所。)

午前9時、福島第一原子力発電所から詳細な説明を受け、前日の不具合の原因が非常用炉心冷却系ポンプ入口弁の弁駆動部における位置検出スイッチの調整(弁が全開になるとスイッチが「切」になるが、弁が全開であったのにも関わらず、「入」のままであった。)にあり、ポンプや弁に異常がなかったことを確認するとともに、他の類似箇所についても不具合がないことを確認した。また、今後の対策として、位置検出スイッチの接点を調整した場合は、接点の状態を確実に確認すること等の対策をとることを確認した。

午前10時過ぎ、中央制御室において、表示盤を確認し、非常用炉心冷却系の表示灯不具合が解消されていることを確認した。また、起動前に必要な点検・確認作業が全て完了したことを確認した。

午前10時20分に起動操作(制御棒引き抜き)が開始され、所定の手順により安全を確認しながら慎重に運転がなされ、午後1時20分に臨界(核分裂が連続する状態)に達したことを確認した。

*1 原子炉格納容器は、原子炉冷却材の漏えい事故が発生した場合、放射性物質を閉じ込める防壁となるため、原子炉格納容器に窒素ガスを充填・加圧し、その漏えい率が基準値以下であることを確認する検査。

*2 原子炉を「冷やす」ための機能で、炉内の冷却水が不足となった際に、炉心を冷却するために水を緊急注入するための装置。



9月17日(金) 定期事業者検査の実施状況、起動操作の概要、非常用ディーゼル発電機及び非常用炉心冷却系機能検査の状況の確認(書類確認)



9月17日(金) 起動操作準備状況の確認(中央制御室)



9月18日(土) 非常用炉心冷却系表示灯不具合の改善状況の確認(中央制御室)



9月18日(土) 原子炉起動操作状況の確認(中央制御室)

福島第一原子力発電所3号機におけるプルサーマル実施に係る
安全確認のためのプロジェクトチームによる現地確認時の資料

- ・ 東京電力(株)福島第一原子力発電所の状況確認実施要領
- ・ 東京電力(株)福島第一原子力発電所状況確認実施細目
- ・ 平成22年度第3回プロジェクトチーム現地確認者等名簿
- ・ 福島第一原子力発電所 第3号機 平成22年度(第24回)定期事業者検査の実施状況について
- ・ 3号機起動運転体制
- ・ 3号機 起動スケジュール()
- ・ ディーゼル発電機、非常用炉心冷却系機能検査の概要
- ・ 3号機 MOX燃料使用に際しての安全監視状況(不適合事象)に関する対応状況について

起動スケジュールは、非常用炉心冷却系表示灯の不具合改善後のもの。また、座席表等については記載省略。